

## 労働安全衛生

### 労働災害の削減

安全・衛生委員会のもと、社員が安心して就業できるよう安全管理を徹底し、快適な職場環境の形成を図っています。労働災害は非常に低い水準で推移しており、その内訳は通勤災害が大半を占めています。直近10年の正規社員・契約社員の死亡災害はありません。

#### 労働災害度数率・強度率の推移(ヤクルト本社)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	全産業平均 <sup>*3</sup>
労働災害度数率 <sup>*1</sup>	0.53	1.06	1.39	0.20	0.40	2.09
労働災害強度率 <sup>*2</sup>	0.0219	0.0109	0.0137	0.0020	0.0006	0.09

※1 労働災害度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、災害発生の頻度を表したものの

※2 労働災害強度率：1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重篤度を表したものの

※3 全産業平均：厚生労働省「令和3年労働災害動向調査」より抜粋

#### 工場における安全衛生巡視と労働環境改善活動

国内各工場では定期的に安全衛生巡視を実施し、指摘箇所の改善に積極的に取り組んでいます。

安全衛生巡視での指摘をもとに行った近年の改善の取り組みとしては、設備点検時に高齢者の身体的負担となっていた昇降用ハシゴの階段への変更、現場内の危険箇所となっていた足場の修正や地震等による棚の転倒防止対策、製品廃棄作業時の作業者の足腰への負担を軽減するためのコンベアー設置等があります。

また、機器更新時には省エネルギーかつ低騒音型機器へ更新する等、職場環境の改善にも取り組んでいます。

#### 工場における安全衛生教育

国内各工場では、労災撲滅に向けてリスクアセスメントを用いて安全衛生教育を実施しています。また、作業上、必須となる知識として酸素欠乏・硫化水素危険作業や危険物取扱作業、フルハーネス型墜落制止用器具特別教育等の安全教育を社内外の講師や外部機関等を活用して実施し、安全衛生に対する意識向上を図っています。

さらに、生産設備や電気等のエネルギー供給設備メーカーの協力のもと、各種設備の原理原則やメンテナンス方法を学ぶ研修会を開催し、社員の技術レベルや安全意識を向上させることで、労働災害の発生抑止に努めています。

工場では、車通勤の従業員が多いことから、交通安全講習会を開催する等、地域社会の一員として通勤時の安全運転に対する意識啓発も図っています。

#### 作業負荷を軽減し労働災害を防ぐ諸設備の導入

国内各工場では、生産終了後に設備の自動洗浄を行います。その準備作業として、人の手によって洗剤を運搬、投入する作業があり、運搬時の転倒や、投入時の薬品の跳ね返りによる労働災害が懸念されるため、洗剤の自動供給装置を導入しています。

2021年度は、足場の不安定な工場天井裏に作業通路を設置し、安全性の向上と作業負担の軽減を図りました。今後も日常点検や整備作業時の安全性をさらに向上させるとともに、作業負荷の軽減を図っていきます。

#### 工場内5S活動への理解・意識の向上(天津ヤクルト)

天津ヤクルトの工場では、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5S活動を通じた労働環境改善に努めています。2021年10～12月には、工場に勤務する全員に活動への参加を促すため、5Sコンテストを実施しました。1～3位までのチームに表彰状を授与し、1位のチームにはメンバー全員に賞品を贈呈しました。コンテストを通じて活動へのモチベーションを高め、安全な労働環境の実現につなげています。上海ヤクルト、無錫ヤクルト、マレーシアヤクルトでも5S活動を推進しています。

#### 労働安全委員会の設置(フィリピンヤクルト)

フィリピンヤクルトには、労働安全を担当する委員会(Yakult Occupational Safety and Health Committee)があり、同委員会では、職場の安全を話しあったり、近隣町内会等と連携し、災害対策・火災時の安全対策等を社内に周知徹底させることを担当しています。

#### 販売現場における取り組み

営業車両を使用するMR(医薬情報担当者)向けに、自動車教習所での教習や社内研修等を定期的実施し、安全運転の啓発を推進しています。また、追突事故を未然に防ぐため、全車両に自動ブレーキアシストシステムを搭載し、社員の安全を守るよう努めています。